

在宅高齢者の“こころ”を支える ICTシステムの開発(122307003)

研究代表者 桑原 教彰

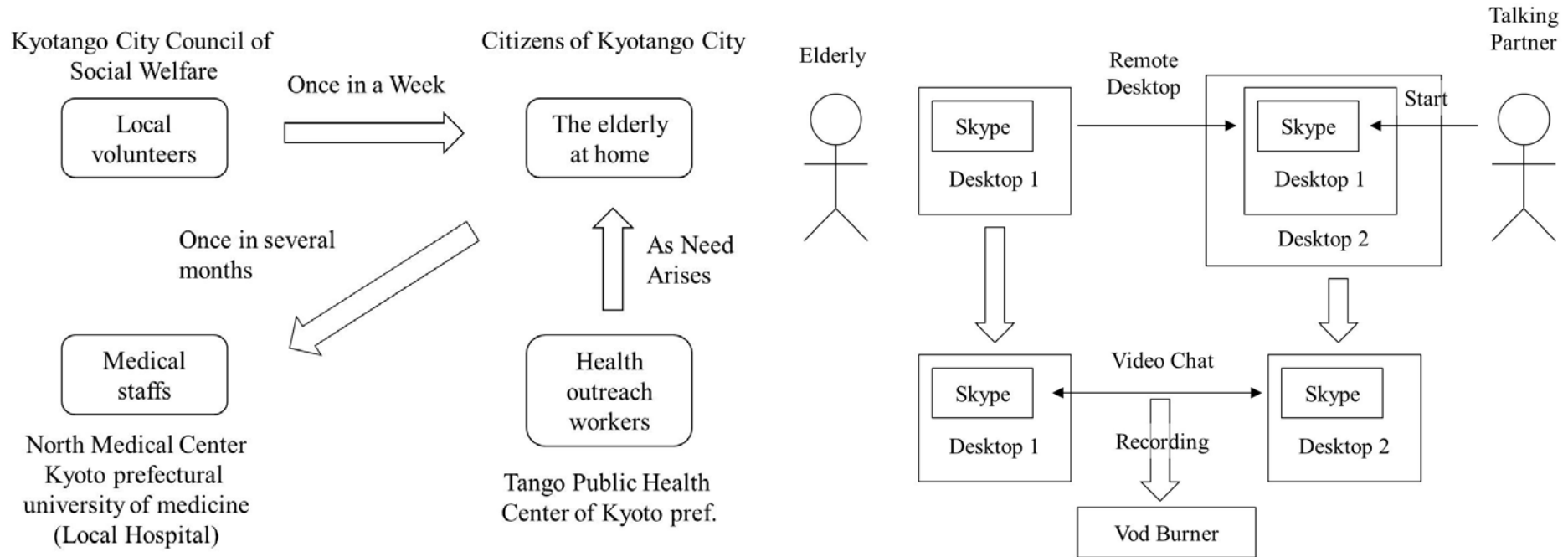
研究分担者 成木 迅 吉富 康成

森本 一成

研究開発の内容

- 京都府丹後地域にお住いの独居高齢者の冬季の不安を解消する社会的な仕組みを、ICTを活用して構築する
 - － 人的ネットワークの構築
 - 医療スタッフ
 - 保健所職員
 - 地域のボランティア
 - － 高齢者の表情が読み取れるよう、ビデオチャットシステムを提供
 - 高齢者が一人で使えるような環境構築
 - 表情からうつへの悪化を検出する仕組みの構築

研究開発の成果



人的ネットワークの構築

独居高齢者が使える
装置構成



まとめと今後の成果の展開

- ほとんどの患者は概ね、1年を通してうつの状態は安定していた。
 - 治療の目的は患者の精神状態の安定であることから、良好な結果が得られたと考えられる。(医師コメント)
- 患者2は6月にうつが非常に悪化した。
 - このときボランティアが高齢者の異常を察知して保健所に連絡を入れ、早急な介入を実施できた。
- 本研究開発で構築した人的ネットワークや装置構成のノウハウの更なる活用
 - 認知症の見守り、家族会のネットワーク構築、授産施設との連携事業など。